

不妊の女



ガラテヤ人への手紙4:24~31

4:24 このことには比喩があります。この女たちは二つの契約です。一つはシナイ山から出ており、奴隷となる子を産みます。その女はハガルです。

4:25 このハガルは、アラビヤにあるシナイ山のことで、今のエルサレムに当たります。なぜなら、彼女はその子どもたちとともに奴隷だからです。

4:26 しかし、上にあるエルサレムは自由であり、私たちの母です。

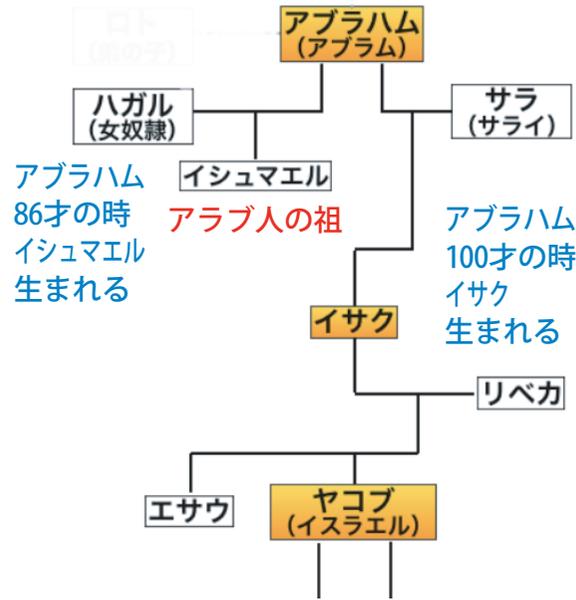
4:27 すなわち、こう書いてあります。「喜べ。子を産まない不妊の女よ。声をあげて呼ばわれ。産みの苦しみを知らない女よ。夫に捨てられた女の産む子どもは、夫のある女の産む子どもよりも多い。」

4:28 兄弟たちよ。あなたがたはイサクのように約束の子どもです。

4:29 しかし、かつて肉によって生まれた者が、御霊によって生まれた者を迫害したように、今もそのとおりです。

4:30 しかし、聖書は何と言っていますか。「奴隷の女とその子どもを追い出せ。奴隷の女の子どもは決して自由の女の子どもとともに相続人になってはならない。」

4:31 こういうわけで、兄弟たちよ。私たちは奴隷の女の子どもではなく、自由の女の子どもです。



不妊の女よ 喜び歌え

「子を産まない不妊の女よ。喜び歌え」
(イザヤ54:1)

聖書に出てくる、よく知られている女性のうち、不妊の女性としてはサラ、リベカ、ラケル、ハンナ、エリサベツなどの名前があげられる。

不妊の女とは

霊的な子どもを産まない教会が不妊の女であるだけでなく、クリスチャンである私たちの生活も、しばしば霊的成長がほとんどみられず、落胆し、自己憐憫に陥ったり、家族の者たちも、私たちが神の愛を示そうとしても何ら関心を持たれないように思えたりと、まさに、不妊の状態である。

このような時、何をすべきか

「彼らはみことばを信じ、主への賛美を歌った」 (詩106:12)



ハガルの追放 創世記21章 (ヤン・ステーン)

賛美の外套

イザヤ61:3 シオンの悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、悲しみの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに**賛美の外套**を着けさせるためである。彼らは、義の櫨の木、栄光を現わす主の植木と呼ばれよう。



神はクリスチャンに、賛美の衣と義の衣を与えてくださっている。これらはすでに与えられている。それゆえ、私たちはそれらを身にまとうのである。

今は、クリスチャンが神の約束を信じ、賛美する時である。他の誰からでもなく、この私から始められなければならない。

私のうちに不妊の女のような状況があっても、神の約束に立って賛美するのである。神は、私が成長してご自身の似姿に達し、多くの実を結ぶ、と約束してくださっている。

それゆえ、否定的な態度へと導くサタンの偽りに耳を傾けることを、私たちは拒否しなければならない。

賛美は神の力を解放する

私たちが神の約束を心より信じ行動するときに、神は約束したことを成就してくださる。私たちは賛美して待ち望まなければならない。賛美こそ神の力を解放する、信仰の表現である。

約束を信じて賛美する

たとえ今そうでなくても、クリスチャンの成長を待ち望んで神の約束を信じる者は、あふれるばかりの励ましと恵みを受けることができ、心より歌うことができるのである。

成長と祝福の備え

この賛美は、来たるべきクリスチャンの成長と祝福の備えとなるのである。

やがて私たち神の民は、右と左に増え広がり、天幕の場所を広げ、住まいの幕を張り伸ばし、綱を長くし、鉄のくいを強固にするからである。イザヤ54:2~4参照

使徒16:25~34 真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。

ところが突然、大地震が起こって、獄舎の土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、みな鎖が解けてしまった。目をさました看守は、見ると、牢のとびらがあいているので、囚人たちが逃げてしまったものと思い、剣を抜いて自殺しようとした。



賛美と祈り

賛美は信仰のもう一つの表現である「祈り」と結びついていなければならない。

使徒の働き16章25節にこう記されている。

「真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると……」。

そして獄舎のとびらが開いて、囚人たちは解放されたのである。

まさに、私たちが祈りと賛美をもって待ち望むとき、神は世界中にある獄舎の固い戸びらを開いて、その中に捕えられている囚人たちを解放してくださるのである。